

自利と利他



柳 幹康

仏教の実践には自利（自己を利する）と利他（他者を利する）という二つの方向性があり、白隠は両者を相補的なものと捉えています。今回は白隠が説く自利と利他について見て参ります。

白隠にとって自利とは「上求菩提」（上に菩提を求める）——見性を経て無数の公案（禅の課題）に参じ悟りを完成させること——です。白隠は言います、「まずは一度、見性の眼をしかと開かねばならぬ。その後、これら透り難き公案に参ぜよ」（『於仁安佐美』巻上）、「そもそも仏祖の教えは非常に奥深いものであり、一回や二回の開悟で極め尽くせるものではない。山は登れば登るほど高くなり、海は潜れば潜るほど深くなるようなものだ。また世の鍛冶屋が鉄を鍛錬して刀を作るようなものだ。何度も火炉の中に入れ錬り鍛えることが肝要である。用いる火

炬は一つであるが、そこに何度も入れて繰り返して鍛錬しなければ、名刀を打ち出すことは難しい。参禅修行も同様だ。突破しがたき仏祖の火炬に（何度も）入って厳しい鍛錬を積まなければ、優れた智慧を発揮することなどできはしない（『四智辨』）。

一方、利他とは「下化衆生」（下に衆生を教化する）——教えを説き人々を救済すること——を指します。白隠は言います、「衆生を救済する術は無数にあるが、なかでも最も重要なのが法施である」（『八重葎』巻三）。なぜなら法施は人々を悟りに向かわせるものであり、その功德は永遠に尽きることがないからです（『八重葎』巻二下、『布鼓』）。なお白隠によれば教えを広めることが僧の僧たる所以であり（『宝鑑貽照』）、出家者は人々に教えを説いて出離（迷い

の世界から脱する）縁を結ばせ、在家者はそれを支えることで、車の両輪のようにともに進むのだといえます（『壁生草』巻上）。

利他の法施のためには自利の見性が欠かせません。白隠は言います、「法施をするには見性（仏心という己が本性を見て取ること）が肝要である」（『お婆々どの粉引き歌』）、「己が本性を明らかにしていないのであれば、どうして他者を導くことができるだろうか。自分の掌を見るようにありありと己が本性を見て取らねばならない。その後、疎山寿塔や南泉一株花など妄念を断つ無数の公案に参究して突破し、そのうえで経論を涉獵し（法施のための）無量の大法財（偉大な法の宝）を収集せよ」（『宝鑑貽照』）。

自利の菩提の完成のためには、利他の法施が欠かせません。白隠は言います、「一旦の開悟

がないわけではないが、いわゆる初心の見性は閃く稲妻ひらめのような（に一瞬のもの）であつて、悟後の修行を用いなければ（自己に執着する）従来の煩惱ざんしの残滓ざんしを無くすることはできない。これを悟つた凡夫という。この重き病を救うために釈尊は下化衆生という方便を設けたのだ。それは分け隔てのない偉大な慈悲の心を起こし（て遍く教えを説き）、一切衆生とともに悟りを完成させることである」（『於おに安あ佐さ美み』巻上）。

自他を分別せず一切を慈しみ教え導くことによつて始めて、自己に執着する煩惱の残滓を一掃することができるといふわけです。

このように白隱にとつて自利と利他とは相補的な関係にあり、そのいずれも欠いてはならないものなのでした。この点を端的に示した白隱の言葉を以下に引き、今回の結びといたします。

見性のみで（法施のための）教法おしえを欠くのであれば、それは片方の車輪が欠けた車のよう（なもので進むことはできない）。教法おしえのみで見性を欠くのであれば、それは言葉を話すオウムのような（なもので何を話しているのか自分でも皆目見当が付かない）。そういうわけであるから真理を参究する諸君、どうか倦うまず弛たまず衆生救済の道に邁進してほしい。（『荊叢毒藥』巻一）

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇二三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所客員研究員（副所長）。著書に「永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編」（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ペ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第71巻 第11号(通巻第843号)
令和3年11月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】野口善敬

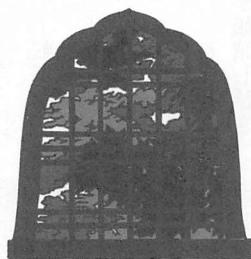
【編集人】石田信行

【印刷人】喜田眞司

【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替 / 01060-9-1400
電話 / 075-463-3121

表紙の絵

「紅葉」



窓の向こう、移ろいたる折々の錦。
絵・正親 里紗(おおざりさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。